



RIKKYO UNIVERSITY
VOLUNTEER CENTER MAIL MAGAZINE

2025.2.3



みなさん、こんにちは。
ボランティアコーディネーターの齋藤です。
今回は、私の相棒を紹介したいと思います。
...それがコレ！

じゃん。ミラーレス一眼レフカメラです。
ボラセンが企画・運営しているボランティアプログラムに参加し、私と一緒に活動したことのある方なら、一度は見たことがあるはず。
ボラセン公式noteの記事(特に活動レポートの記事)にも、このカメラで撮った写真がよく使われています。

そもそも一眼レフと呼ばれるカメラに初めて手を出したのは、大学3年のときでした。友人に借りたNikonのカメラで撮った写真が最初の一枚です。撮影場所は、東日本大震災で津波被害を受けた福島県いわき市の海岸でした。
東京から乗ってきた小さいバスを降りると、そこは更地のように何も無い土地でした。見慣れない殺風景な景色。現地の方は、「震災前は家々が立ち並んでいた場所だった」と説明してくれましたが、その言葉を信じられるだけの痕跡すら残っていないのです。現地の方が思い浮かべているであろう震災前の情景を、その語りだけを手がかりにして受け取ることに無理があったように思います。
しかし、津波によって何もかもが本当に一瞬で奪われていったこと、その事実だけは自分の中に強く刻まれました。

今まで見ていた景色から目を離し、くると体を回すと、今度は目の前に青い海が広がりました。波がぶつかり白い飛沫が混じり合う。それが陽の光に照らされてきらきらと輝く。まさに絵に描いたような景色です。それだけを、そこだけを見れば確かに“綺麗な景色”に見惚れるだけで終わってしまったかもしれません。
しかし、私の背後にはその海によって奪われた暮らしと殺風景な土地があります。その海の輝きは、自然の残酷さを表しているのか、それとも美しさを表しているのか。見える景色と見えない背景が私を境にぶつかり合って、簡単に受け止めることのできないような複雑さの渦に巻き込まれていくような気がしました。

被災地の今を記録しようと、何度も何度もシャッターを切りました。でも、当時私が持っていた手のひらサイズのコンパクトデジタルカメラやスマホで記録した写真に、あの時の私の感覚を呼び起こすものは一つもなかったのです。“ただただ綺麗な海”“ただただ何も無い土地”。残念ながら、それ以上でもそれ以下でもありませんでした。
ただ、友人から借りた一眼レフで撮影した写真だけは違いました。たった数枚の写真は、見えていた景色だけでなく、その時に流れていた風や纏っていた空気、温度、色、そして私の感情までも切り取ったかのようで、そこに存在していたものを再び味わっているような感覚にさせられる。静かで雄弁な写真でした。これが、見えないものを伝える表現への初めての出会いでした。

しばらく経って手に入れたのが、Nikon D5300という一眼レフ。今は、Sony α7iiiというミラーレス一眼レフが相棒です。その相棒を通して、見えるものだけでなく、見えないものをも伝えられたらと思っています。

ボランティア活動のフィールドは、その場に立ってみなければ見えてこない・出会えない価値や可能性に溢れていて、そこに吹く風がなんとも心地良いのです。

しかし、残念ながら、外から見えないもの＝存在しないものだと誤解されてしまうこともあります。タダ働き、安価な労働力、雑用なんて思われていたら心外ですね。だからこそ、ボランティアコーディネーターとして、共に活動する学生のみなさんのすぐ傍でシャッターを切り続けながら、その現場に秘められている可能性と物語の存在証明をしていきたいと思っています。

齋藤 元気

(池袋キャンパス ボランティアコーディネーター)

各コンテンツの詳細や写真は、ボランティアセンター公式【note】からご覧ください！

https://note.com/rikkyo_volunteer/n/n3a54f0815471?sub_rt=share_pw

**** 今月のCONTENTS ****

■ボラセンからのお知らせ

【1】＊募集期間延長！＊立教チームで活動する1dayボランティア「さいたまマラソン」の参加メンバーを募集しています！

【2】貸し出し開始図書を紹介！

【3】一般入試期間中の窓口開室時間について

■ボラセン活動レポート

【1】ボランティアに参加する立教生が語る！ | 新座キャンパスにて、「ボランティアってどんな感じ？」を開催しました！

■ボランティア関連情報

＊ボランティア募集＊

【1】中高生の「好き」を応援できる！居場所づくりボランティア大募集！

【2】「荒川区子ども食堂・子どもの居場所ボランティア活動説明会」を開催！

【3】「第9回 ノルディックウォーキング・ポールウォーキング全国大会」ボランティアスタッフ募集！

■RSLセンターからのお知らせ

フィールドからの体験学習！2025年度の春学期に開講する、RSL実践系科目説明会をオンラインで実施します。

■陸前高田サテライト事務局からのお知らせ

援助金制度を利用して、陸前高田グローバルキャンパスに行ってみよう！

■□■ 巻末コラム ■□■

みなさん、こんにちは。

ボランティアセンタースタッフの工藤桃子です。数年前に立教のフランス文学専攻を修了し紆余曲折経て、おとし秋からボラセン(池袋)で働いています。まさか母校に戻る日が来るとは思っていませんでした。余談ですが院生時代に私が書いた報告書や体験の声などが立教大学webサイトにいまでも掲載されていたりします。わかった方はこっそり教えてくださいね。閑話休題。

日々ボラセンで働いていると様々な悩みの言葉を聞く機会があります。「周りはいろいろしているのに自分は何もやっていない」「何かしたいけど何をやればいいのかわからない」「今から動き出しても遅すぎないか」「なるべく失敗したくない」などなど。

大学生活では、学業以外にもサークル活動、アルバイト、ボランティア、留学、インターンシップなど、さまざまな選択肢が増えますし、それまで出会うことのなかった多様な人たちとも関わるこ

とになります。そうして世界が広がる一方で、他人と自分を比較したり、何をすべきか迷ったりすることも多くなるのかもしれませんが。

皆さんは「桜梅桃李(おうばいと우리)」という言葉をご存じでしょうか？これは中国に古くから伝わる言葉で、「桜は桜、梅は梅、桃は桃、李(すもも)は李、それぞれの花には咲く季節があり、それぞれが美しく、唯一無二の良さがある」という意味です。人生の長いスパンで見れば、誰もがそれぞれに活躍するタイミングがあり、何かを始めるのに遅すぎることはない、この言葉から私はよく勇気をもらっています。さらに、他人と比較して落ち込んでしまうことがあったとしても、「自分は世界に一人しかいない存在である」ということを思い出し、励まされることもあります。(実は、この「桜梅桃李」は私の名前の由来の一つでもあり、私にとって大切な言葉です。)

ボランティアセンターに足を運んだことがある人も、ない人も、ボランティア活動だけが人生の選択肢ではありませんし、他の選択をしても全く問題ありません。そもそも、大学在籍中に何かを成し遂げなければならないわけではないのです。社会に出てから、さらには定年後に、輝く人たちもたくさんいます。もし、失敗を恐れたり、何もできていないことに焦ったり、他人と自分を比較してしまったりして、「自分」を大切にできなくなりそうな時は、ぜひこの「桜梅桃李」を思い出してみてください。

そのうえでもし「何か始めてみたい！」と思った時は、ボラセンに来てみてください。ボランティア活動といっても様々な選択肢があります。皆さんにぴったりはまるピースとなる「何か」があるかもしれません。場合によっては、「やっぱりこれじゃなかった」と思うこともあるかもしれませんが、それも一つの経験です。ともあれ、ボラセンスタッフ一同いつでも皆さんをお待ちしています。池袋キャンパスは5号館入ってすぐ左の事務所で、新座キャンパスは7号館2階、自動ドアをくぐってすぐ右のカウンターです。

桜梅桃李の花が咲く季節も、もうすぐ。でもまだまだ寒い日が続きますので、どうかお体には気を付けて、元気に過ごしてくださいね。良い春休みを！

工藤 桃子

(池袋キャンパスボランティアセンター スタッフ)

立教大学ボランティアセンター

池袋キャンパス(5号館1階)・新座キャンパス(7号館2階)

開室時間: 月～金 9:00～17:00

▼ボラセンWebページ

http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/extracurricular_activities/volunteer.html

▼メールアドレス

volunteer@rikkyo.ac.jp

▼X(@rikkyo_volucen)

http://twitter.com/rikkyo_volucen/

▼Instagram

https://www.instagram.com/rikkyo_vc/?hl=ja

▼note

https://note.com/rikkyo_volunteer/

▼YouTube

https://www.youtube.com/channel/UCo5eBf_CcveSsRAccG5rrzw

配信停止を希望の場合は以下のGoogle Formを送信してください

<https://forms.gle/PRuubMtYvuHVfKoG8>

(C)2019 RVC all rights reserved.
